

# 女性に配慮したAEDの使用方法的普及啓発事業

北多摩南部保健医療圏

実施年度 開始 令和2年度 終了 令和2年度

**背景**

心臓突然死の原因の多くは心室細動と呼ばれる重篤な不整脈であり、心室細動からの救命にはAEDによる電気ショックが必要である。

令和元年5月に、京都大学等の研究グループがまとめた報告によると、小中学生ではAEDパッドの装着率に有意な男女差はなかったが、高校生になると女性への装着率が有意に低かった。本報告では、女性の服を脱がせることへの抵抗感から、AEDの使用率に男女差が生じているのではないかと分析されていた。

AEDの使用に当たっては、パッドを素肌に直接貼り付けることができれば服をすべて脱がせる必要はないが、こうした女性に配慮した使用方法が一般人に十分に浸透していない現状があるため、性別に関係なくAEDを使用できる環境の整備が必要と考えた。

**目標**

①女性に配慮したAEDの使用法があることを広く周知し、性別に関係なくAEDを使用できるよう、さらにAEDの使用に対する心理的抵抗感を軽減できるよう、普及啓発を図る。

②AEDを適切に使用するためには、日頃の保守点検が重要であることから、啓発資材に保守点検等の情報も併せて記載し、設置されているAEDの性能低下や使用不能状態に陥ることを防止していく。

**事業内容**

①啓発資材等の作成

AEDの使用法（女性に配慮した使用法を含む）と日常の保守点検の重要性を記載した啓発資材（ボード2種類、リーフレット）及び被覆材を作成した。

作成にあたっては、地域保健連絡会で管内6市に対し事業説明及び意見交換を行うとともに、専門家（公益財団法人日本AED財団）の監修を受けた。啓発資材等はAEDボックスの内外に設置できるよう、デザイン及び規格を工夫した。

②関係機関への啓発資材等の配布

管内6市等へ本事業の情報提供を行った上で、管内6市の公共施設等に作成した啓発資材及び被覆材を配布し、AEDへの掲示及び配置を依頼した。

（配布先：市の公共施設等454カ所、消防署9カ所、都立高等学校等及び都立特別支援学校の養護教諭22名）

③住民への普及啓発活動

- ・保健所ホームページに「女性に配慮したAEDの使用法について」を掲載した。
- ・薬事講習会において、本事業の説明資料を配布した。
- ・京王閣競輪場の大型スクリーン等で、本事業の普及啓発を行った。

**評価**

女性に配慮したAEDの使用法の普及啓発事業は、東京都で初の試みであり、多方面から大きな反響があった。本事業の実施により、様々な媒体を通して、女性に配慮したAEDの使用法があることを広く周知することができた。また、AEDの保守点検の重要性についても、各施設に再認識を促すことができた。

①管内6市に実施したアンケートによると、全ての市から「啓発資材は市にとって役に立つ」「啓発資材を市の関係施設のAEDに設置したい」との回答を得た。

②NHKのネット記事「未来スイッチ 女性にAED ためらわないで 寄せられた声から」にて、本事業が紹介された。これにより広く住民に普及啓発することができた。

③公益財団法人東京防災救急協会の情報誌「SAFETY LIFE TOKYO」にて、本事業が紹介された。これにより防災・救急業務関係者に広く普及啓発することができた。

④複数の団体及び個人から、救命講習等で啓発資材を使いたいとの要望があった。

**問合せ先**

多摩府中保健所 生活環境安全課 薬事指導担当  
 電話 042-362-2334  
 ファクシミリ 042-360-2144  
 E-mail S0200167@section.metro.tokyo.jp

北多摩南部

# 女性に配慮したAEDの使用法の普及啓発事業

## 1 事業背景

我が国では毎日多くの人々が心臓突然死で命を失っている。その原因の多くは「心室細動」と呼ばれる重篤な不整脈である。心室細動からの救命には、迅速な胸骨圧迫（心臓マッサージ）とAEDによる電気ショックが必要である。

電気ショックが1分遅れるごとに、救命率は10%ずつ低下する。119番通報をしてから救急車が到着するまでの平均時間は8.6分（総務省消防庁：令和元年版救急・救助の現況）であり、突然の心停止から傷病者を救うためには、その場に居合わせた一般市民の協力が不可欠である。

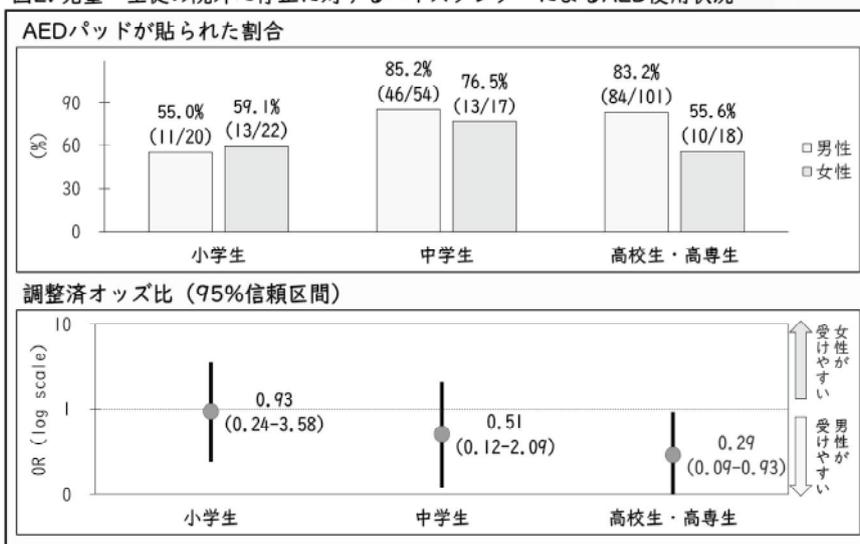
令和元年5月、女性のほうが男性よりAEDが使われにくいと報告された「京都大学等の研究グループ」より、全国の学校の構内で心停止となった子ども232人について、救急隊が到着する前にAEDのパッドが装着されたかどうかを調べたところ、小学生と中学生では男女に有意な差はなかったが、高校生になると有意な男女差が見られた。

研究では、女性の服を脱がすことへの抵抗感から、AEDの使用率に男女差が生じているのではないかと分析されていた。

AEDを使用する際は、電源を入れて2枚のパッドを素肌に貼るが、服をすべて脱がせる必要はなく、下着をずらして貼ることで対応できる。また、パッドを貼ったあと、その上から服などをかけて肌を隠すようにしても、AEDの機能に影響はない。

しかし、このような女性に配慮したAEDの使用法が、一般の人に十分に浸透していない可能性がある。

図2. 児童・生徒の院外心停止に対するバイスタンダーによるAED使用状況



出典：2019年日本疫学会ポスター

## 2 事業目標

- (1) 女性に配慮したAEDの使用法があることを広く周知し、性別に関係なくAEDを使用できるよう、さらに使用に対する心理的抵抗感を軽減できるよう、普及啓発を図る。
- (2) AEDを適切に使用するためには、日頃の保守点検が重要であることから、啓発資材に保守点検等の情報も併せて記載し、設置されているAEDの性能低下や使用不能状態に陥ることを防止していく。

## 3 事業内容

### (1) 啓発資材等の作成

ア 令和2年度第1回地域保健連絡会にて、事業説明及び意見交換を行った。

令和2年度第1回地域保健連絡会 日時：令和2年6月11日（木曜日）

場所：多摩府中保健所 5階 講堂

出席者：管内6市の保健衛生主管課、保健所各課

イ 地域保健連絡会の意見を参考に啓発資材等の原案を作成し、専門家である公益財団法人日本AED財団へ当資材の監修を依頼した。また、財団と意見交換を行い、科学的な視点から本事業へのアドバイスを受けた。

意見交換会 日 時：令和2年7月6日（月曜日）  
 場 所：公益財団法人日本AED財団  
 東京都千代田区内神田二丁目7番13号 山手ビル3号館1階

ウ イの監修依頼と並行して、デザイン制作会社に啓発資材のデザイン制作等業務の委託を行った。  
 啓発資材の原案は公益財団法人日本AED財団の監修を受け、それを基にデザイン制作会社にデザインを委託し、令和2年9月15日に啓発資材のデザインが確定した。

エ 啓発資材は以下の4種類を作成した。効果的な啓発資材となるよう、規格及び素材を工夫した。

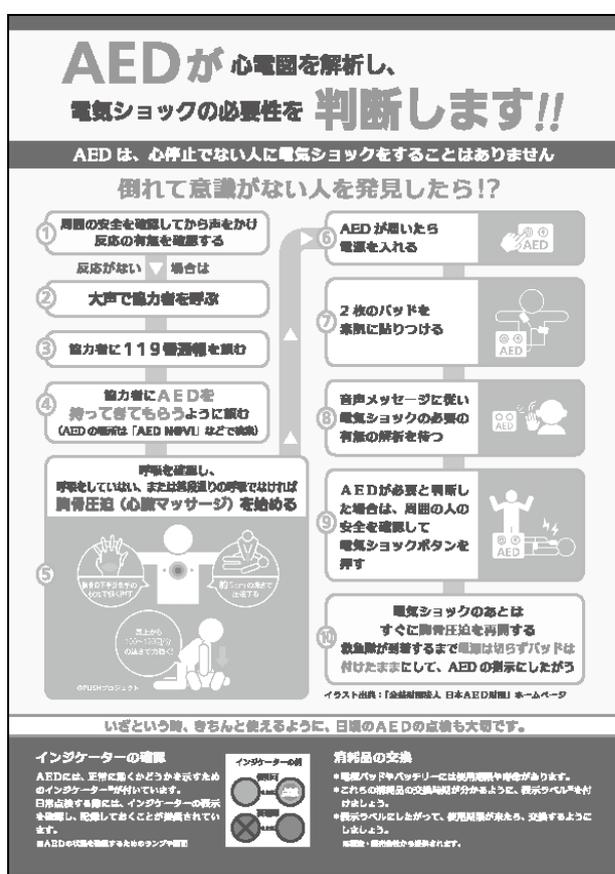
- ① AEDの使用方法（女性に配慮した使用方法を含む）と日頃の保守点検の重要性を記載したボード（A4サイズ）

ボードには下敷き程度の厚さの耐水性素材を用い、左上に穴をあけた。穴にリングを通して、AEDボックスの外側に取り付けたフック等に掛けられるよう工夫した。

北多摩南部



A4サイズボード及びリーフレット（表面）



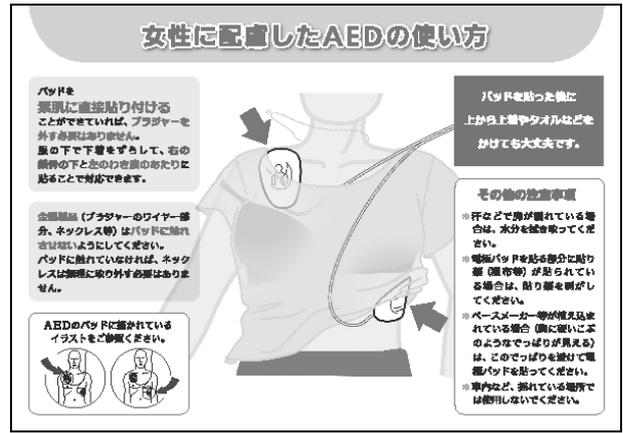
A4サイズボード及びリーフレット（裏面）

- ② AEDの使用方法（女性に配慮した使用方法を含む）と日常の保守点検の重要性を記載したリーフレット（A4サイズ）  
 内容・デザインは①と同じ

- ③ AEDの使用方法（女性に配慮した使用方法を含む）を記載したボード（A5サイズ）  
 下敷きより少し薄い厚さの耐水性素材を用い、④を入れたクリアケース（B5サイズ）に一緒に入れられる大きさとした。



A 5 サイズボード (表面)



A 5 サイズボード (裏面)

④ 被覆材 (布製)

AED使用時に、傷病者の上半身を覆うなど多目的に活用できる被覆材(布製)を作成した。被覆材は人の上半身を覆うことのできる大きさ(1メートル四方の風呂敷)とし、厚さは広げて人に被せた時に透けない厚さとした。

被覆材は、AEDボックスの内側に設置できるように、クリアケース(B5サイズ)に収納し、使用方法等を記載した③を同梱した。



クリアケースに入った被覆材



被覆材を広げた様子

※ 啓発資材の設置イメージ



(2) 関係機関への啓発資材等の配布

ア 管内6市の保健衛生主管課を通して、各市の公共施設に作成した啓発資材及び被覆材を配布し、各施設が所有しているAEDへの掲示及び配置を依頼した。

配布時期：令和2年12月18日

配布箇所：454カ所

配布方法：

- ① 令和2年度第2回地域保健連絡会（令和2年11月19日開催）において、管内6市の保健衛生主管課に啓発資材等の説明を行い、啓発資材の送付先一覧の提出を依頼した。
- ② 各市から提供された送付先一覧に基づき、各送付先へ啓発資材一式を個別に送付した。  
（小・中学校、保育園、学童クラブ、公民館、文化センター、図書館、高齢者施設、市役所等）

イ 管内6市の消防署に本事業の説明を行い、各消防署に啓発資材及び被覆材を配布した。まず、府中消防署において事業説明及び意見交換を行った上で、他の5カ所の消防署に電話で事業説明等を行った。

配布時期：令和3年1月4日

配布箇所：9カ所（各市消防署及び調布市内出張所（3カ所））

ウ 管内6市の東京都立高等学校、東京都立中高一貫校、東京都立特別支援学校の養護教諭に、啓発資材及び被覆材を配布した。配布に当たり、事前に、東京都立高等学校学校保健研究会を通して東京都立高等学校及び東京都立中高一貫校の養護教諭に、また、東京都特別支援学校養護教諭研究会を通して東京都立特別支援学校の養護教諭に、それぞれ本事業の情報提供を行った。

配布時期：令和3年2月22日

配布箇所：22カ所（東京都立高等学校学校保健研究会及び東京都特別支援学校養護教諭研究会の事務局校を含む）

### (3) 住民への普及啓発活動

ア ホームページにおける普及啓発

保健所ホームページに新コンテンツ「女性に配慮したAEDの使用方法について」を掲載した。

掲載日：令和2年11月27日

URL：[https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tamafuchu/yakuji/aed\\_shiyo.html](https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tamafuchu/yakuji/aed_shiyo.html)

イ 薬事講習会（書面開催）における普及啓発

管内6市の薬局に、本事業の説明資料及び啓発資材（リーフレット）を配布した。

配付日：令和2年10月14日

対象者：管内6市の薬局（510カ所）の管理薬剤師等

ウ 京王閣競輪場における普及啓発

京王閣競輪場の協力を得て、「女性にAEDを使うのをためらわないで！！」、「パッドを素肌に直接貼り付けることができているならば、服をすべて脱がす必要はありません。パッドを貼った後に、上から服やタオルをかけても大丈夫です」の文字、及び服をずらしてAEDのパッドを貼った女性のイラストを、大型スクリーン及び場内に点在しているテレビモニターで1日複数回放映した。

掲載期間：令和3年1月1日から3日まで及び1月8日から10日まで（競輪開催日）

対象者：京王閣競輪場来場者



## 4 事業評価

女性に配慮したAEDの使用法の普及啓発事業は、東京都で初の試みであり、多方面から大きな反響があった。詳細は以下のとおり。

### (1) NHKのネット記事にて本事業が紹介

令和2年11月6日、NHK名古屋放送局から本事業の取材を受けた。

担当記者に本事業を説明し、啓発資材等の使用方法をデモンストレーションしたところ、令和2年12月にNHKのネット記事及びLINEニュースにて、本事業が紹介された。これにより、広く住民に、女性に配慮したAEDの使用法があることを普及啓発することができた。

- ・NHKネット記事「未来スイッチ 女性にAED ためらわないで 寄せられた声から」  
URLは以下のとおり。

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/miraiswitch/article/article55/>

- ・NHK LINEニュース「女性にAED ためらわないで “命最優先の風潮を” 触るのはリスク “寄せられた声から”

### (2) 公益財団法人東京防災救急協会の情報誌「SAFETY LIFE TOKYO」にて、本事業が紹介

公益財団法人東京防災救急協会が発行している防災・救急情報誌「SAFETY LIFE TOKYO」（令和3年4月号）において、本事業が紹介された。（発行部数：約20,000部）

当情報誌の読者は、都内消防署、小・中・高等学校、民間企業（応急手当奨励事業所）、病院、全国消防関係団体、防火・防災管理者などであり、防火・防災・応急手当に非常に関心の高い層である。これにより、広く防災・救急業務関係者に、女性に配慮したAEDの使用法があることを普及啓発することができた。また、AEDの保守点検の重要性についても、各関係者に再認識を促すことができた。

### (3) 複数の自治体、団体及び個人から、救命講習等で啓発資材を使いたい等との要望

保健所ホームページ「女性に配慮したAEDの使用法について」を見た複数の自治体、団体及び個人から、本事業に関して問い合わせがあった。問い合わせ内容は、ホームページに掲載されている啓発資材（リーフレット）をAED救命救急講習等で使用したいというものや広報紙で紹介したいといったものが多かった。

また、令和2年12月に管内6市の保健衛生主管課にアンケートを実施したところ、全ての市から「啓発資材は市にとって役に立つ」「啓発資材を市の関係施設のAEDに設置したい」との回答を得た。

啓発資材を配布した管内6市の保健衛生主管課及び消防署からは各連絡会及び意見交換会において、前向きな意見や感想を得た。

本事業の実施により、様々な媒体を通して、女性に配慮したAEDの使用法があることを広く周知することができた。また、AEDの保守点検の重要性についても、AED設置施設を中心に、普及啓発することができた。